

努力事項解説 その11 (特別活動)

活動の過程や結果における児童生徒の努力や意欲などを積極的に
認めるとともに、児童生徒のよさを多面的・総合的に評価し、
振り返り発表する場を設け深化を図りましょう。

特別活動の評価で最も大切なことは、「児童生徒一人一人のよさや可能性を積極的に認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など生きる力を育成するという視点から評価を進めていく」ことです。

そのために、

活動の結果だけでなく活動の過程における児童生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童生徒のよさを多面的・総合的に評価しましょう。

児童生徒が、自己の活動を振り返り、新たな目標や課題を持てるようにすることが大切です。活動を行ったときには、児童生徒が自己の活動を振り返り、それを積み重ねていけるようなワークシートやポートフォリオの考え方を生かした自己評価表などを工夫するとともに、自分の学んだことや感じたことを発表する場を設け、集団の成因相互による評価を行うなどして、評価について工夫していくことが大切です。

評価については、指導の改善に生かすという視点を重視することが重要です。

評価を通じて教師が指導の過程や方法について反省し、より効果的な指導が行えるような工夫や改善を図っていくことが大切です。とりわけ、学級活動については、学級集団の育成上の課題や発達の課題を踏まえて指導することを重視しているため、学級集団の育成の状況について評価したり、発達の課題についての状況を評価したりするとともに、この評価の結果を適切に指導に生かすことが重要です。

こうした特別活動の評価に当たっては、各活動・学校行事について具体的な評価の観点を設定し、評価の場や時期、方法を明らかにする必要があります。その際、特に活動過程についての評価を大切にするとともに、学級担任や当該学年の教師はもとより、全教師の共通理解と連携を十分に図って適切に評価することができるようにすることが必要です。



考えていきます。

今回で、努力事項の解説は終わりです。次回から、小学校学習指導要領解説特別活動編について、考えていきます。

今回は、小学校学習指導要領解説特別活動編 第3 指導計画の作成と内容の取扱いから 1 (1)『特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学級や学校の実態や児童の発達の段階を考慮し、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。』について

11月29日（金）頃アップの予定です。